

# 地質学セミナー

日時:5月 29日(水)

17時～

場所:総合研究棟B棟110教室

## タイ国東北部の Khorat 層群から産する 恐竜類の足跡化石

発表者① 生物圏変遷科学分野 高津翔平

タイ国では 1950 年代から東北部に広く分布する Khorat 層群の研究が始まり、恐竜類の骨格化石とともに足跡化石が多く発見されている。これら多くの足跡化石が報告されている一方でその計測方法は研究者によって異なり具体的な報告・記載は行われていない。足跡化石とは生活の痕を残す生痕化石のひとつであり、「現地性の生きた痕跡」から、骨格化石からは知り得ない”Trackmaker”の歩様や歩行・走行速度、行動パターン等を推測することができる。そこでこれら恐竜類の足跡化石を統一された測定方法に基づき同定・記載し、恐竜類の行動パターンや習性を推測するとともに、足跡から分かるタイ国東北部における恐竜相の古地理学的復元を試みる。尚、足跡化石測定方法については石垣(1988)を参考に統一してある。本研究で扱う「足印」や「行跡」といった足跡学専門用語についても上記を参考頂きたい。

Khorat 層群は三畳紀後期から白亜紀中頃にかけて堆積した陸源性堆積物であり、タイ国東北部に広く分布する。最下位の Huai Hin Lat 層から最上位の Maha Sarakham 層までの計 8 層で構成される。本研究では Non Tum や Phu Wiang をはじめ計 8 ヶ所の足跡産地にて調査を行った。

### ＜獣脚類足跡＞

調査をおこなった足跡産地の多くで獣脚類足跡が観察できその足印数の占める割合も大きい。細くて長い 3 趾が特徴的であり鋭い爪痕が残されているものもある。2 足歩行であり足印長 10 cm ほどの小型のものから 40 cm 以上もある大型のものが確認できた。

### ＜鳥脚類足跡＞

鳥脚類の足跡は足跡産地 Phu Wiang と Tha Uthen にて確認できた。太く短い指が特徴的であり、足底は広く平らである。獣脚類足跡とは異なり 2 足ないし 4 足歩行である。どれもやや小型で足印長は大きいもので 20 cm 程である。草食恐竜の個体

数は肉食恐竜より多いが、Khorat 層群における足跡化石についてみると、残される鳥脚類の足跡の占める割合は比較的小さい。

### ＜竜脚類足跡＞

竜脚類の足跡は足跡産地 Non Tum にて確認できた。足印長 50 ～ 60 cm 程の大きな後ろ足(pes)とやや外側に残る小さな前足(manus)が特徴的である。三畳紀後期の竜脚類の足跡報告はまれである。

### ＜その他の足跡＞

足跡産地 Non Tum では恐竜類の半遊泳跡と考えられる”Swim Track”や走行跡の”Running Track”が確認できた。

以上のように、Khorat 層群からは多くの獣脚類や鳥脚類等の足跡が確認できた。足跡化石をみてもその多様性が十分見てとれる。今後得られたデータを基に、三畳紀後期～白亜紀中頃における東南アジア周辺の恐竜相の古地理学的復元を行っていく。



図 1 Khorat 層群における代表的な恐竜類足跡化石  
A: 獣脚類足跡 B: 鳥脚類足跡 C: 竜脚類足跡